



はじめに

柿原政一郎は、高鍋町の政治と文化に最も貢献した人物です。戦前・戦後を通じて高鍋町長を3期勤めました。終戦後の困難な時代に、前任町長の懇請を受けて町長に就任しました。昭和10年には宮崎市長を勤めました。さらにその前には衆議院議員でした。

明治39年に東京帝大を終えると、岡山孤児院を開いた石井十次のもとでその秘書役を勤めました。併せて石井十次の最大の支援者だった倉敷紡績社長・大原孫三郎の秘書役も勤めました。

石井十次の近くで過ごした若き日の体験がその後の彼の人生を形成したといえるでしょう。大原孫三郎の秘書として働き、大原社会問題研究所の設立に骨を折ったことも、社会正義を実現する社会事業家としての感覚を磨くのに役立ったことでしょう。

父・^{まさかず}正一、母・^{きみ}喜美のひとり息子として誕生したときから、両親の深い愛情のもとで育てられました。両親は貧しかったのですが、父親は大志を持ち、原野の開拓という壮大な事業に挑

戦っていました。幼少期の成長に最も影響を与えたのが父・正一だったといえるでしょう。

正一は裸一貫から新田村(現新富町)湯風呂の原野を開拓し、当時としては最も進んだ開拓農村の創設に挑み、その目的を達成しました。

政一郎はいつもそんな父親の背中を見て育ちました。

まずは父・柿原正一の生涯から見てみましょう。

第一章 父・柿原正一の生涯

1.正一の生い立ち



柿原正一 すぐれた農業開拓者 政一郎の父親

正一は元治元年(1864)高鍋村道具小路の鷹匠たかじょうの家に生まれました。柿原家は禄高十石という小身の徒士かちでした。江戸時代末期になると鷹匠の仕事はなくなりました。正一の父・正幸まさゆきは武芸にすぐれていたもので、藩から抜擢され洋式訓練を受けるため2度江戸に上りました。廃藩置県後、明治5年から10年まで島田小学校に体操教師として勤めたといえます。

明治 10 年、西南戦争が起ると、高鍋は西郷軍について参戦するか否かで町を二分する論争が起りました。結局参戦することになり、洋式教練の教師であった正幸は、第 7 番隊のきょうどう嚮導（曹長の位）として出陣し、田原坂で戦死してしまいました。

正一の母・ときは 28 才の若さですでに亡くなっていました。正一は両親を亡くしてしまったのです。柿原家には、祖父・豊蔵と祖母・けさ、それに病身の叔父・吉彦、14 才の正一、正一の 7 才年下の弟・正次が残されました。

正一は後年、日誌に「祖父豊蔵氏強健にて農耕に勤めらるる外は老幼者のみにて、親類三浦興風氏の助力を得て漸く一家の生活を立つ」と当時の柿原家の窮状を記録しています。

2. 正一、小学校の代用教員をしながらばんすいがくしゃ晩翠学舎に通う

柿原正一略年譜によると、正一は明治 4 年（1871）数え歳 8 才のときに松岡惣次郎方で手習いをはじめたとあります。明治六年に 10 才で島田小学校に入学します。翌年、11 才になったとき、母・ときが病死します。明治 10 年、14 才で西南戦争が起り、父・正幸が戦死します。翌明治 11 年、島田小学校を 15 才で卒業すると、小学校に代用教員で雇ってもらいました。

その年10月、私塾・晩翠学舎に入塾します。

1才年下の石井十次も晩翠学舎にやってきました。2人は机をならべて学んだという記録が残されています。晩翠学舎は藩校明倫堂が閉校になってのち、中等教育の場がないことを憂慮した旧藩士・田村^{たむらよしかつ}義勝が開いた私塾で、漢学を教えました。四書五経を素読から学んだことが正一と十次の精神的成長に大きく役立ちました。高鍋出身の先輩で、後に大津事件の検事総長として有名になる東京在住の三好退蔵宅で書生をひとり雇いたいとの希望があり、晩翠学舎の生徒の中から正一が選ばれました。しかし正一がいないと柿原家が困るので家族から反対され、正一は無念の思いで断念しました。

3.正一に大志あり

柿原家は貧しく、正一は上の学校に行けませんでした。大志を抱いていました。原野の開拓です。新田村^ゆ湯風呂^{ぶろ}の国有地の払下げを受け、同志と共に開墾を行いました。初期には自給自足が困難だったため、正一は県庁に勤めながら開墾に従事しました。長男・政一郎が成長し学資が必要になると、大阪区役所に就職し、後には住友に勤めました。政一郎が大学を終えると勤めを辞め、湯風呂に帰って開拓に

従事しました。

彼は農民であると同時に能吏でもありました。金銭にも明るく常に収支を計算しました。彼がめざしたのは新しい農業でした。

4.正一、若くして結婚へ

柿原家は、家に^{おんなで}女手がなくて困るというので正一は17才で妻をもらいました。妻は西南戦争で戦死した^{たなかます え}田中増衛の長女・喜美です。石井十次のいところでした。喜美は柿原家のような貧乏世帯に行くのを嫌がりましたが、「3日でよいから」と説得されて嫁に来ました。3日経ったので風呂敷包に荷物をまとめて実家に帰ると、「本当に帰る奴があるか」と叱られ、しかたなくまた婚家に戻りました。

後年、喜美はこの話をして家族を笑わせました。そんな喜美を柿原家では「こんな貧乏世帯によく来てくれた」と大事にしました。



柿原正一と妻・喜美 金婚式の写真

5.長男・政一郎誕生す

妻をもらった正一は将来の計画を立てました。原野を開拓し新しい農業を興すことが夢でした。明治16年に長男・政一郎が生まれました。正一は理想を持ち、貧しいながらも生活基盤をつくり、政一郎に教育を受けさせたいと思いました。正一は宮崎県庁の最下級の職員「雇^{やとい}」として就職しました。

県庁で大蔵省から出向していた中山^{しょうのすけ}尚之介を知りました。中山は博学多才でしたが親切な人柄でした。正一は中山から多くのことを学びました。中山も無学な正一が並々ならぬ才能を秘めているのを見抜きました。正一は中山に大阪に出て法律を勉強したいと打ち明けました。中山は大阪府庁に転任するよう骨を折ってくれました。明治19年、正一は大阪府租税課に就職し、妻子を大阪に呼びました。

翌年、喜美の弟・田中^{まさよし}正善が、いこの十次の岡山孤児院を手伝うこととなり、喜美は政一郎を連れ正善に同行して岡山に行きました。子供だった政一郎は、はじめて十次に会いました。この出会いは政一郎の将来に大きな影響を与えました。

正一は関西法律学校夜間部に入学しますが、府庁の仕事は多忙で勉強は進みませんでした。政一郎は入学した堂島の小学校で田舎者扱いされて通

学をいやがり、金を持ち出して買い食いをするようになりました。

政一郎には大阪の生活が合わないのを知り、正一は宮崎に帰ることにしました。その前に上京し、中山尚之介に会って今後の相談をしました。鹿児島出身の農商務省次官前田^{まさな}正名にも面会して、進んだ農業政策について教えを受けました。彼の計画は固まっていきました。宮崎に帰ると、また宮崎県庁に就職し、給料をもらいながら農業をしました。

6.正一、開墾地を新田村湯風呂に決める

正一は県庁に勤めながら計画に着手しました。土地を物色したところ、新田村湯風呂の官有地の原野が気に入りました。自宅から 1 里半ありましたが歩いて通えました。雑木の山や谷のある起伏の多い台地で、湧き水もありました。^{はる}原とよばれるなだらかな台地ではなく、開墾しにくい土地でしたが、選んだ理由はリスク分散でした。原は開墾しやすい干ばつや台風の被害を受けやすいのです。山や谷の起伏があれば、開墾はやっかいだが干ばつや台風被害は軽くてすみます。払下げ対価を支払うためには給料では足りず、牛を繁殖させ子牛を売って資金を貯め、2 年かかって支払いました。道具小路の自宅を解体して湯風呂に

運びました。

7.勤務しながら開墾事業

明治25年5月、払下げの許可が下り開墾事業を開始しました。土地は自分の所有となりましたが、1人で開墾するには広すぎるので、同志となる農民を募って入植させ、協力して開墾することにしました。

正一が考えた新しい農業とは次のようなものです。

まず、土地は正一が所有します。開墾は入植者（協力者）と一緒にいきます。入植者には土地を貸し与えて開墾させます。入植者の土地から得られた収穫のうちから一定量を上納させます。3年たつと開墾した土地は入植者に無償で与えます。入植者を徐々に増やし、開墾地も徐々に増やしていきます。

入植者の第1号として^{ざいつとくじろう}財津徳次郎、続いて片山^{かとう た}嘉藤太が家族をつれて入りました。いずれも四国から開拓農家を目指して日向国に来た人たちでした。彼等のはじめは生活困窮者でしたが、困窮者であるが故に、与えられた土地を必死で開墾しました。

正一は湯風呂には四国出身者しか入れませんでした。正一は、自分が日向人でありながら、日向人の「てげてげさ（中途半端なこと）」を知っていました。四国人は日向人になく勤勉さ

と忍耐強さがありました。四国は土地が狭いので、集約農業が発達しました。農地を無駄なく耕作し、農閑期を設けませんでした。長男しか家督が継げず、次男以下は他所へ働きに出なければなりませんでした。彼等には忍耐強さと勤勉さが身につけていました。正一はのちには十次と相談し4人の孤児院出身者を入れました。

自給自足を目指しましたが、はじめのうちは米や野菜の収穫も十分でなく、自給自足には至らず、生活費が足りませんでした。正一は県庁勤めの給料を割いて入植者に賃金として支払っていました。米だけでは現金収入が足りないので、換金作物の栽培もしました。多忙で貧しかったのですが、正一は費用を捻出して四国や紀州まで出張し、専門の柑橘農家をたずねて果樹栽培の指導を受けました。みかん、ぶどう、柿などを植え椎茸栽培もして、現金収入を少しでも増やそうとしました。正一は入植者の面倒をよく見ました。自立できない者には生活費を支給して支えました。借金をこしらえた者には、本人に黙って肩代わりしました。急に借金取りが来なくなったのを不思議に思った本人が調べると真相がわかりました。年末に各家をまわって餅を配るのは妻・喜美の役目でした。そんな正一に入植者たちはよく従いました。彼等は懸命に湯風呂を開墾し、耕地を広げていきました。湯風呂は

段々と豊かな耕地に変化していきま
した。

8.政一郎の学費稼ぎに住友に勤 める

明治 32 年、政一郎の宮崎中学卒業
が近づくと、学費が必要になりました。
少しでも給料の多い職を求めて上阪
し、大阪西区役所に勤めました。湯風
呂の管理は財津と片山に任せました。

その年 11 月、住友の^{すずき まさや}鈴木馬左也
に会います。鈴木馬左也は高鍋出身で、
東京帝大を出ると内務省に入りました。
内務省から愛媛県に出向していた
明治 29 年に住友家からスカウトされ
ます。鈴木は内務省を辞め住友に入社
しました。入社と同時に住友本店の副
支配人となり、明治 37 年には住友総
理事となります。

正一が会った時、鈴木馬左也は別子
鋳業所支配人を兼務していました。鈴
木に頼んで住友に雇ってもらうこと
にし、別子鋳業所のある新居浜市に引
っ越しました。鈴木の指示で岡山孤児
院への四国一円の寄付金集めの世話
役も兼任しました。住友は正一が能吏
であることを認め、当時としては高給
の月給 25 円で処遇しました。ちなみ
に大阪西区役所の月給は 17 円でした。

9.政一郎が大学を終え倉敷紡績 に就職、正一は住友を退社し 湯風呂に帰る

政一郎は岡山の六高に合格しました。政一郎は六高に通いながら十次の岡山孤児院の経営を手伝いました。明治40年、政一郎は東京帝大を終えると、石井十次の岡山孤児院で働きました。同時に大原孫三郎が社長を勤める倉敷紡績株式会社に入社し、大原の秘書になりました。

正一は政一郎への学資の仕送りが不要になったので、高給の住友を未練もなく退社し、湯風呂に帰りました。正一は干ばつに備え溜池を作りました。溜池の建設に住友勤務で貯金した700円をあてました。

そのころ湯風呂の開拓は成功事例として宮崎県の注目するところとなり、宮崎県知事高岡直吉が視察に訪れました。2月には石井十次夫妻もやってきました。6月には溜池が完成し、石井万吉、岩村真鉄らを招いて完成祝いをしました。

明治42年8月、住友は農業分野で社会事業を興す計画を立て、柿原正一を主任で迎えたい旨要請してきました。正一はこの社会事業に興味を示し、再び住友社員となりました。この時の月給は50円でした。しかし、この事業は成功せず、正一は翌年7月住友を退社し、湯風呂に帰りました。

13.政一郎、宮崎市長となり、昭和天皇を案内する



県庁屋上で昭和天皇に説明する柿原誠一郎(後ろ姿)

昭和10年2月、宮崎市役所では職員の集団的な税金使い込み事件が発覚し、市長、助役、収入役が引責辞任する非常事態となりました。

秋には都城市で昭和天皇が臨席して陸軍大演習が挙行されます。天皇は帰途にお召列車で宮崎市を訪問することになっていました。天皇の行幸があるのに市長なしでは済まされません。緊急市議会は後任市長に柿原政一郎を選出し、内諾を得るために柿原の親友・岩切章太郎を特使として派遣しました。

政一郎はこのとき52才でした。政一郎は「無報酬の名誉市長」を条件に内諾します。7月11日に市議会は満場一致で正式に柿原政一郎を市長に選任しました。政一郎は議場で就任演説を行いました。

「私は行政については全くの素人であるが、宮崎市が火事だと聞いて、バケツをひっさげて駆けつけました。一意献身の覚悟でございますので、なにとぞ皆様のご協力をお願いしたい」

議場は割れるような拍手で応えま

した。

11月15日、政一郎は宮崎県庁の屋上に昭和天皇を迎え、宮崎市内を天皇に説明するという栄誉に浴しました。

父・正一は政一郎の、この栄誉を心から喜び、終生誇りとしました。政一郎が昭和12年に市長を退職するまでの2年間は、正一にとっては市長の父親として、晴れがましく、幸せな日々でした。

正一の昭和10年11月15日の日誌には次のように記録しています。

「11月15日 （天皇陛下）宮崎御出発、鹿児島より御乗艦、御帰京遊ばされ、政一郎は鹿児島へ御見送り申し上げたり、柿原家は旧藩にて十石を頂戴する徒士^{かち}にて鷹を預かる家柄なり、政一郎に至り、初めて天皇陛下に^{しせき}咫尺し奉りたる光栄此の上無し」

15.正一、脳出血で倒れ、73年の生涯を終える

昭和12年9月、正一は妻と2人で三納代駅から歩いて湯風呂に帰る途中で4、5回ころびました。通りかかった地元の青年にリヤカーに乗せてもらって家に帰りつきました。脳出血でした。10日後には昏睡状態に陥りました。政一郎の懸命な看病もむなしく、10月11日に正一は自宅で永眠しました。享年73才。

湯風呂の農民たちは尊敬するリー

ダーの死を心から悼みました。彼等は
松の木を切って 柩^{ひつぎ}を作り、松やにを
内面に塗り、茶の葉をぎっしりと敷き
つめ、その上に遺体を安置しました。
重さ 300 キロもある柩を白装束の若
者たちが担ぎ、湯風呂で一番高い山の
上に埋葬しました。

正一は、こよなく愛した湯風呂の地
で永遠の眠りにつきました。

(つづく)

令和8年8月3日

文責：石川正樹

発行：社会教育課 文化係